

# 川西市議会議員

# ふくにし 勝

## 活動報告 第51号

2023年 夏号 発行責任者：ふくにし勝後援会 会長 原 龍生



令和5年第2回川西市議会(6月定例会)が6月2日(金)~6月28日(水)まで開催されました。

今回は「学校へ行けない人への支援」と「上下水道事業の今後」についての一般質問を行いました。

## 不登校児童・生徒へ支援の拡充！

国は平成28年12月7日に不登校児童生徒支援について初めて体系的に規定した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立しました。

更に不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校「特例校」の設置促進についても示しています。

令和3年10月13日に文部科学省から出された「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」より、いじめや暴力によって不登校となるケースや、家庭の経済的理由や病気、その他のケースで学校の長期欠席者数が毎年増加していることがわかります。

令和3年度まで9年間毎年増加し、令和3年度は全国で24万4,940人と過去最多となりました。そのようなことを踏まえて川西市の不登校児童・生徒への支援の拡充に向けて一般質問しました。

# 川西生まれ!川西育ち!!

## 1、不登校の現状について

Q、川西市は越田市長就任後、全小中学校に校内フリースクールが整備されました。

川西市の小学校・中学校の長期欠席児童生徒・不登校の状況はどうなっていますか？

A、令和4年度の川西市内の小中学校の長期欠席者数は

小学校で227名(1.27%)うち不登校児童は96名(前年度比+26名)。

中学校で398名(8.02%)うち不登校生徒は303名(前年度比+53名)。

令和3年度の全国と比較すると(令和4年度はまだ公表されていない)小学校では全国平均をやや下回り、中学校では約1ポイント強高いが全国平均と大きな差はない。

川西市の不登校は10年前と比較すると小学校で約4倍、中学校で2倍に増えている。



文部科学省  
COCOLOプラン

## 2、不登校特例校の設置について

Q、不登校特例校の設置が進みだしています。

全国に令和元年度で12校（公立5校、私立7校）

令和5年度は24校（公立14校、私立10校）と今後も増加していくと考えます。

川西市として不登校特例校の設置に向けたお考えはありますか？



文部科学省  
不設置に向けての手引き

A、校内フリースクールを全小中学校に設置している。

子どもたちの学びの場を更に広げていく必要があると考える。

特例校設置の可能性を研究している。

昨年度、京都市や岐阜市の特例校の先行実施事例を視察するなど、現在検討を重ねている。

## 3、民間フリースクールの誘致について

Q、川西市の近隣自治体には民間のフリースクールがあります。

しかし川西市には民間のフリースクールはありません。

川西市に民間のフリースクールを誘致するお考えはありますか？



文部科学省  
フリースクールQ&A

A、不登校施策全体の検討を行っている中で、民間フリースクールの設立に伴う補助や有効性や実現の可能性を今後研究する。

# 子どもの笑顔があふれる街、川西!

川西市には適応指導教室「セオリア」が川西能勢口駅前にあります。

しかし中部や北部にはそのような施設がありません。

私は南北に長い川西市として、不登校児童・生徒への支援は一体的な取り組みが必要と考えます。そのことに対しては、教育委員会としても「その必要性については認識している。」と今回の質問では全体的に前向きな答弁がありました。

川西市の財政状況を考えると「あれもこれも」はできませんが、不登校児童・生徒への支援は待ったなしと考えます。

その他には上下水道事業の今後について（1）上下水道局所有の未利用地の活用（2）久代浄水場の在り方（3）下水道料金改定（4）節水意識（5）組織のスリム化（6）マンホールカードの活用をテーマに質問をしました。

**ご意見・ご感想等ご連絡をお待ちしています。**

【連絡先】 ふくにし勝後援会 〒666-0014 川西市小戸 1-6-12-303

☎&📠 072-744-2803 📠 090-4766-2203

**プロフィール** 昭和54(1979)年7月20日生まれ(43歳)、鶴之荘幼稚園卒園、川西小学校、緑台中学校、大商学園高等学校卒業。

高校卒業後はスノーボードインストラクター、清和台中学校陸上競技部の外部コーチ等、市村浩一郎衆議院議員公設秘書を経て、平成22年川西市議会議員選挙初当選。現在4期目議会運営委員会、建設常任委員会、飛行場対策周辺整備調査特別委員会に所属。

# 川西市議会議員

# ふくにし 勝

## 活動報告 第50号

2023年 春号 発行責任者：ふくにし勝後援会 会長 原 龍生



令和5年第1回川西市議会(3月定例会)が2月16日(木)~3月24日(金)まで開催されました。

今回は会派を代表して総括質問をしました。その一部をご報告させていただきます。

### 越田市長の施政方針に対する総括質問

#### 1、中学生が少人数で授業を受けられる環境づくりについて

越田市長就任以降、学校現場には地域の人を含めた学校関係者以外の人が多く配置されています。令和5年度は更に教員の業務負担軽減に向けて、新たに8名(2,913万円)の教員を市独自の予算で配置されます。(全7中学校へ各1名、東谷中は2名)

ただ、教員の担い手不足が深刻で、教員の人材確保に注力してほしいと意見しました。

兵庫県における令和5年度採用試験の中学校教員の平均倍率は3.7倍で、令和4年度の4.1倍と比較して減少しています。(小学校は令和4年度4.5倍→令和5年度4.2倍と減少)

兵庫県の教員採用試験の時期は民間企業よりも遅いので、兵庫県に試験時期の前倒しを要望するよう川西市に意見しました。(国も大きな問題として捉えています。)

#### 2、乳幼児等医療費及びこども医療費助成の拡充について

子育て世代の財政的な支援として令和5年7月~令和6年2月(会計上は8月~3月)までの8か月間において高校生の年齢まで入院費用を無償にし、乳幼児等及び子どもの医療費助成の対象世帯を含め所得制限を行わないとされます。(7,880万円)

1年間になると約1億円の費用となる観点から、今後は次年度以降の財源確保が課題となりますが、事業見直し等で財源の捻出を会派としても提案していきます。

#### 3、教育大綱の策定について

私が以前に一般質問でも取り上げたテーマであり、総合教育会議の開催を増やし、保護者や子どもからも意見を聞こうとする越田市長の取り組みに感銘を受けました。

詳細については今の段階で未定ではありますが、7中学校区で教育委員会や保護者や児童・生徒と意見交換をされるわけですが、子どもたちが話しやすい場の雰囲気づくりと、子どもにもわかりやすい教育大綱の策定を意見しました。

## 4、公営住宅の跡地について

絹延団地や多田団地・久代団地の解体整備工事（4億6,862万円）が行われます。公営住宅周辺の市民からは公園や広場にしてほしいという声を頻繁に聞きます。私はそのことを一般質問でも取り上げ、公園が少ない地域には公園の整備を訴えてきました。公共施設等総合管理計画に公営住宅跡地は売却すると掲載していますが、多田団地（新田1）の跡地は全部を売却するのではなく、一部は隣接する新田児童遊園地を拡充するよう提案しました。

## 5、旧県立川西高校跡地の活用について

加茂地域にある、旧県立川西高校（加茂3）の解体設計（830万円）が行われます。川西市は解体後、新たに新設のグラウンド等の整備を検討されています。私は以前に一般質問でも人工芝グラウンドの整備を訴えてきました。スポーツ振興くじ toto の助成金を活用して、隣接する加茂小学校第2運動場を拡充する形で、人工芝グラウンドにすることを提案しました。

## 6、旧南部処理センター跡地の活用について

平成21年4月から国崎クリーンセンターが稼働したことに伴い廃止した、旧南部処理センター（加茂6）の解体設計（5,000万円）が行われます。公共施設等総合管理計画に売却すると掲載されていますが、令和5年度の施政方針に売却予定はなく跡地活用として災害時の利用も想定した広場の整備と示されています。私は以前に一般質問でもスケートボードができる環境整備を訴えてきました。災害時以外にはスケートボードができる場所とするよう提案しました。また私は隣接する「し尿中継所」の広域化を訴えてきました。年を重ねるとともに維持管理費は増大し、老朽化の影響もあり時期は未定ですが、広域化に向けて進むことの答弁がありました。

# 子どもの笑顔があふれる街、川西!

「総括質問を終えて」 市議会議員として13年目となりました。

これまで取り組んできたことが少しずつではありますが形になってきました。フリースクール支援員の拡充、中学校の体育館を地域開放、公園トイレの洋式化等、実現しました。引き続き人工芝グラウンドやスケートボードができる環境整備の実現に向けて取り組みます。

**ご意見・ご感想等ご連絡をお待ちしています。**

【連絡先】 ふくにし勝後援会 〒666-0014 川西市小戸 1-6-12-303

☎&📠 072-744-2803 📠 090-4766-2203

**プロフィール** 昭和54(1979)年7月20日生まれ(43歳)、鶴之荘幼稚園卒園、川西小学校、緑台中学校、大商学園高等学校卒業。

高校卒業後はスノーボードインストラクター、清和台中学校陸上競技部の外部コーチ等、市村浩一郎衆議院議員公設秘書を経て、平成22年川西市議会議員選挙初当選。現在4期目議会運営委員会、建設常任委員会、飛行場対策周辺整備調査特別委員会に所属。

# 川西市議会議員

# ふくにし 勝

## 活動報告 第49号

2023年 冬号 発行責任者：ふくにし勝後援会 会長 原 龍生



令和4年第7回川西市議会(12月定例会)が11月28日(月)～12月23日(金)まで開催されました。

今回は「川西市立総合医療センター開設後の救急について」をテーマに一般質問しました。

## 久代出張所に救急車を配置!

川西市立総合医療センター(以下、総合医療センター)が9月1日より開設されました。

総合医療センターが開設後、阪急川西能勢口駅周辺の中心市街地においては、救急車のサイレンを頻繁に聞くようになったと感じます。

それは川西市内における救急搬送の拠点として、キセラ川西地域内に総合医療センターが整備されたからです。そこで総合医療センター開設後の救急体制の状況について質問しました。

## 子どもの笑顔があふれる街、川西!

Q、総合医療センター開設後の市内搬送・市外搬送状況はどう変わったのか?

A、総合医療センター開設前は、市内搬送・市外搬送ともに50%であったのが、開設後は市内搬送70%、市外搬送30%と市内搬送の割合が増えた。

Q、総合医療センター開設前の搬送状況と比べて何が良くなったのか?

A、119番通報から病院到着までの時間短縮や、搬送先医療機関への問い合わせ回数の減少が見受けられ、総合医療センターへの患者搬送率が高いという効果大きい。

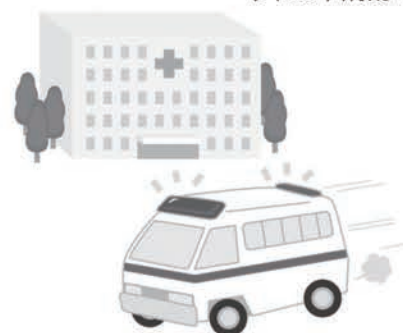
Q、そのことによって救急隊員の職務が効率よくなったのか?

A、指令から帰署までの時間が平均約2時間かかっていたのが15分から20分ぐらい短縮されたことによって、職員の労務による疲労とかも軽減された。

(出場件数…現場へ駆けつけた数。搬送…病院へ搬送した数。)



令和3年消防年報



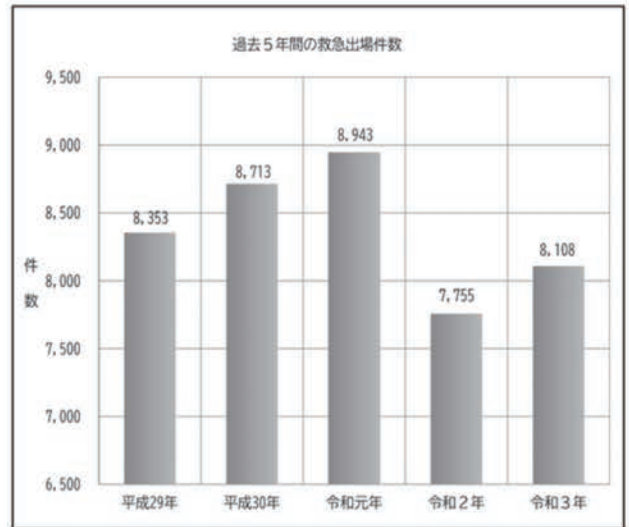
# 救急車の出場件数が増加!

越田市長の令和4年度所信表明で令和7年度より消防車を5隊から6隊へと1隊増やすと言われています。消防年報に令和2年(1/1~12/31)はコロナ禍において、救急出場件数は7,755件と令和元年から約1,200件減少しましたが、感染拡大が落ち着いた令和3年は8,180件と増加しました。(右図)

令和4年は過去最高出場件数となります。

また傷病程度別搬送では平成29年は軽症50%、中等症46%⇒令和3年には軽症46%、中等症50%と中等症の搬送件数が増えています。

(軽症…入院の必要なし。中等症…入院の必要あり。)



## 川西生まれ!川西育ち!!

そして年齢区分別で65歳以上の高齢者搬送は、平成29年67.7%⇒令和3年69.4%(約70%)の5,157人となっています。(右図)

今後は65歳以上の高齢化率は微増ですが、後期高齢化率が高くなり、夏の熱中症等が原因で高齢者の搬送割合が高くなっていくと想定いたします。

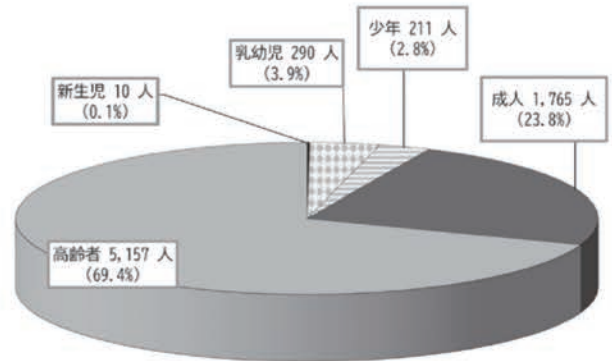
新病院開設前には様々な議論がありました。

開設後もたくさんの要望を聞きますが、総合医療センターは一人でも多くの命を救う二次救急指定病院として、救急医療体制が整備されたのではないかと再認識いたしました。

毎月600件以上の出場件数実績があり、1日平均22件の出場件数となっています。

その中で、毎年、平日8時~19時の出場件数が多いという統計が出ていることを鑑みて、令和7年度より救急隊1隊の増隊を目指していますが、令和6年度中に平日の日中だけでも先行して救急隊の増隊を意見しました。

その中で、毎年、平日8時~19時の出場件数が多いという統計が出ていることを鑑みて、令和7年度より救急隊1隊の増隊を目指していますが、令和6年度中に平日の日中だけでも先行して救急隊の増隊を意見しました。



ご意見・ご感想等ご連絡をお待ちしています。

【連絡先】ふくにし勝後援会 〒666-0014 川西市小戸1-6-12-303

☎&📠 072-744-2803 📠 090-4766-2203

### プロフィール

昭和54年7月20日生まれ(43歳)、鶴之荘幼稚園卒園、川西小学校、緑台中学校、大商学園高等学校卒業。高校卒業後はスノーボードインストラクター、清和台中学校陸上競技部の外部コーチ等、市村浩一郎衆議院議員公設秘書を経て、平成22年川西市議会議員選挙初当選。現在、4期目。

議会運営委員会、総務生活常任委員会、飛行場対策周辺整備調査特別委員会に所属。

# 川西市議会議員

# ふくにし 勝

## 活動報告 第48号

2022年 秋号 発行責任者：ふくにし勝後援会 会長 原 龍生



令和4年第4回川西市議会(9月定例会)が8月22日(月)～9月15日(木)まで開催されました。

今回は「スクールカウンセラーの拡充について」をテーマに一般質問しました。

また9月20日(火)～26日(月)には令和3年度決算審査が行われました。

## 教育環境の整備を進めます！

平成7年度から文部科学省では児童生徒の心のケアをするため、臨床心理の専門家であるスクールカウンセラーの導入が進み、25年以上が経過した現在では、兵庫県内の公立中学校全てにスクールカウンセラーが配置されており、小学校への配置も急速に進んできています。

川西市内の全16小学校の内、川西小学校・川西北小学校・多田東小学校・東谷小学校の4小学校にはスクールカウンセラーが配置されていますが、4小学校以外には配置されていません。

## 子どもの笑顔があふれる街、川西!

スクールカウンセラーは兵庫県の費用で運営されており、1人当たり年間210時間(1週間1回、1日6時間の年間35日)と勤務時間が決まっています。

スクールカウンセラーの1時間の費用は平均5,000円で、1人当たりの年間費用は約105万円です。

IT環境の発達により、今後もますます複雑化していく子どもの心の問題などに対応していくためにも、スクールカウンセラーを増員するべきと考えます。

近隣自治体の伊丹市や三田市、猪名川町では、市費・町費でスクールカウンセラーを増やしています。

年間の勤務時間を65時間や100時間とし、兵庫県の費用より少なくしてでも全小学校へ配置しています。

川西市も近隣自治体のように市費を活用して、スクールカウンセラーを増員することを提案しました。



# スクールカウンセラーの増員!

スクールカウンセラーの勤務時間は限られています。その大半を相談業務に費やしています。近年は教職員からの相談が増え、川西市内の様々な相談窓口においても相談件数は増加傾向にあります。

しかも学校現場では相談内容が複雑化していることを踏まえると、相談したくてもスクールカウンセラーの予定に空きがないので、相談するまでに2週間以上後となるケースもあります。またスクールカウンセラーの業務は相談を受けることだけでなく、校長先生や教頭先生、スクールソーシャルワーカー等の学校関係者と協議を行い、時には問題解決に向けてのコーディネーターとなるケースもあります。

## 川西生まれ!川西育ち!!

多田中学校区には多田中学校と多田東小学校にスクールカウンセラーが配置されています。

多田小学校を多田中学校のスクールカウンセラーがカバーしています。

また清和台中校区には清和台小学校と清和台南小学校、けやき坂小学校の3小学校ありますが、清和台中学校にスクールカウンセラーが配置されているだけで、清和台中学校区の3つの小学校には1人もスクールカウンセラーが配置されていません。

中学校区における格差があることから、例えばけやき坂小学校にスクールカウンセラーを1人配置することを具体的に提案しました。

学校現場でのいじめ発生はこれまで中学1年生が多かったのですが、近年では小学校の低学年で発生していることが様々な調査でわかっています。

臨床心理のプロであるスクールカウンセラーを多く配置して、子どもたちのしぐさや、目つき等で、子どもの変化を察知し、早期発見・早期対応・早期解決が必要ではないかと考えます。

学校現場では教職員の働き方改革が叫ばれています。

スクールカウンセラーを増員し、各小学校に配置することで、全校に配置されたスクールソーシャルワーカーとの連携が進み、教職員の残業時間の削減にもつながると考えます。



**ご意見・ご感想等ご連絡をお待ちしています。**

【連絡先】 ふくにし勝後援会 〒666-0014 川西市小戸 1-6-12-303

☎&📠 072-744-2803 📱 090-4766-2203

### プロフィール

昭和54年7月20日生まれ(43歳)、鶴之荘幼稚園、川西小学校、緑台中学校、大商学園高等学校卒業。高校卒業後はスノーボードインストラクター、清和台中学校陸上競技部の外部コーチ等、市村浩一郎衆議院議員公設秘書を経て、平成22年川西市議会議員選挙初当選。





# 川西市議会議員

# ふくにし 勝

## 活動報告 第47号

2022年 夏号 発行責任者：ふくにし勝後援会 会長 原 龍生

令和4年第2回川西市議会(6月定例会)が6月2日(木)~24日(金)まで開催されました。  
今回は「川西市の厳しい財政状況について」と「中学校の部活動改革の取り組みについて」を一般質問しました。

## 持続可能な財政運営に向けて!

歳入の根幹と言える市税収入は、直近20年間で毎年約200億円と増減していません。  
川西市の納税義務者数は、平成16年度に65,222人であったのが、令和2年度は73,972人と16年間で、8,750人の納税義務者が増えています。

しかし納税義務者数1人当たりの平均納税額は、平成16年度と令和2年度で比較すると-1,172円で、増えていないことが確認できます。  
家計所得の増加に向けて、または企業の人材不足の影響によって、女性が就労しやすい環境となりましたが、日本の人口が減少し、生産年齢人口(16歳~64歳)も減少傾向であります。



私は今後も納税義務者数が右肩上がりに増えることは想定しにくく、数年後にはピークアウトし、その後は納税義務者数が減少傾向になることを想定しての行政運営を求めました。

現役世代の所得が増加し、納税義務者数1人当たりの平均納税額が増収しないと、歳入の根幹と言える市税収入は確実に減収します。

## 子どもの笑顔があふれる街、川西!

川西市の財政状況が悪い要因は、貯金(基金残高)が約12億円と少なく、借金(地方債残高)が約730億円と多いこと、また経常収支比率が95.7%と高いことだと認識しています。

歳入は人口減少が更に進む時代に、今後も今まで通り、国からの地方交付税が毎年約80億円入ってくることの保証はありません。

しかし歳出は人件費や扶助費といった義務的経費は減少させることが難しく、今後は介護保険や、後期高齢者医療保険などの医療費である、社会保障費が確実に増加します。

更に財政運営が硬直化し、経常収支比率が100%に近づくことを懸念していることを訴えました。

私は財政運営の更なる硬直化による市民サービスの低下を一番恐れています。

# 部活動改革の取り組み!



検討会議提言のQR

令和4年6月6日に運動部活動の地域移行に関する検討会議において「部活動の地域移行に関する検討会議提言」が取りまとめられスポーツ庁に手交されました。

2023年(令和5年)度より3年間を休日の運動部活動の地域移行に向けた改革集中期間とします。

しかし休日の地域移行には、人材確保の問題、指導者への費用や責任の問題等、様々な課題を抱えています。

「休日の地域移行の取り組みを誰が先頭に立って進めて行くのか?」の私の質問には「教育委員会が担う役割は大きいと考えている。」の答弁に期待をしたいと思います。

## スポーツ協会との連携、各種競技の市内クラブチームの現状把握を訴えました!

今後は生徒にとって望ましい合理的な地方大会の推進が、学校体育団体や競技団体に求められています。

中学校は生徒数の規模によって、教職員数に差が発生し、東谷中は17クラブ、緑台中は9クラブと部活動数に差があります。

クラブ数の多い中学校は生徒にとって選択肢が多く有難いことですが、クラブ数の少ない中学校は生徒が入部したい競技がなく、他の競技をするか、部活動に入れられない状況です。

また部活動に入らない生徒の中には、民間のクラブチームに所属している生徒がおり、2023年(令和5年)度よりクラブチームも中学校体育連盟(中体連)の大会へ参加が可能となります。

今後は中学校の生徒数が確実に減少します、今の部活動数の維持は不可能と考えます。



・休日の地域移行によって、顧問の教職員は試合の采配ができなくなるので、外部コーチよりも試合の采配ができる「部活動指導員」の拡充。

・野球やサッカーのように9人、11人いないと試合ができない競技は2(チーム)校を1(チーム)校へ合同チームとする。

・バスケットやバレーボールなどは拠点校化する。以上、3つの内容を提案しました。

大人の無責任は全て中学生にしわ寄せが行きます。「誰かがやる」ではなく、大人が「自分事」として考えているか、考えていないかで、部活動の地域移行は自治体間格差が発生します。

**ご意見・ご感想等ご連絡をお待ちしています。**

【連絡先】ふくにし勝後援会 〒666-0014 川西市小戸1-6-12-303

☎&📠 072-744-2803 📠 090-4766-2203

福西 勝(ふくにし・まさる) プロフィール

昭和54年7月20日生まれ(43歳)、鶴之荘幼稚園、川西小学校、緑台中学校、大商学園高等学校卒業。高校卒業後はスノーボードインストラクター、清和台中学校陸上競技部の外部コーチ等、市村浩一郎衆議院議員公設第二秘書を経て、平成22年川西市議会議員選挙初当選。(3期目)現在、建設公企常任委員会、中心市街地・新名神整備調査特別委員会委員長  
猪名川上流広域ごみ処理施設組合議会議長・都市計画審議会委員

# 川西市議会議員

# ふくにし 勝

## 活動報告 第46号

2022年 春号 発行責任者：ふくにし勝後援会 会長 原 龍生



令和4年第1回川西市議会(1月定例会)が2月17日(木)~3月25日(金)まで開催されました。  
今回は「立地適正化計画策定の提案」と「公園のトイレを洋式化する考え」について一般質問しました。

## 公園トイレの洋式化を提案!

市民から「公園の遊具は新しくなっているけど、トイレはキレイにならないの?」や「和式トイレを洋式トイレに替えてほしい。」「夕方以降になると不気味で使えない。」と言われます。確かに学校や駅のトイレはキレイになりましたし、公共施設においても建替えた新築のトイレは当然キレイです。

公園遊具の更新は少しずつ進んでいますが、トイレ改修は和式のままで進んでいません。

## 子どもの笑顔があふれる街、川西!

公園のトイレは設置後40年以上が経過しているトイレもあり、キレイで使いやすいという状況でないことは認識しています。

そこで公園のトイレは和式トイレが多く、洋式トイレへの取り替えが必要ではないかと考えます。

利用状況を把握して利用頻度の多いトイレは改修する。

利用頻度の少ないトイレはあり方を検討する。また、トイレ設置の要望や需要のある公園には新設整備を訴えました。

最近ではオールジェンダートイレを含む多機能トイレの充実が進んでいるように感じます。

オストメイト(人工肛門等保有者)の対応設備や、大人も可能なオムツ替え台の設置も必要かと考えます。

男性用トイレにもベビーチェア-の設置が増えています。

公園のトイレはいろんな人が利用します、より多くの方が安心して利用できるよう、前倒しのトイレ改修を要望しました。



市内公園トイレ

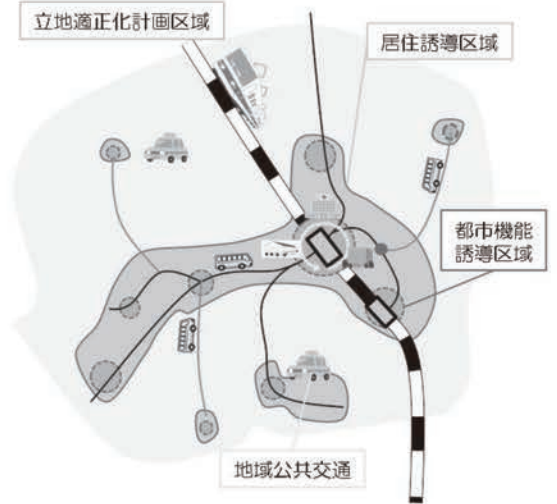
# 立地適正化計画の策定を提案!

立地適正化計画は人口が少なくなった分、まちをコンパクトにする(小さくまとめる)計画です。川西市の人口は平成17年(2005年)の157,668人をピークに減少し続けています。

人口が減少すると経済が縮小し、経済が縮小すれば税収も横ばいもしくは減収と考えます。

今後も人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥るリスクが高いと感じます。

そこで、人口減少は避けられないにしても、将来世代に負担感がなく、縮小しながら同時に拡充していく時代、縮充社会を目指すためにも立地適正化計画の策定に向けての一般質問をしました。(縮充社会は福西独自の表現)



## 川西生まれ!川西育ち!!

国は平成26年8月に都市再生特別措置法等を改定し、その中で立地適正化計画の策定を全国の自治体へ促しました。

立地適正化計画の取り組み状況は、法改正後6年が経過した令和2年7月末時点で542自治体であったのが、令和3年7月末時点で594自治体と増加しており、1年間で新たに52自治体が具体的な取り組みを始めています。

全国に約1,800自治体の内、約1/3の自治体が策定を公表、若しくは策定に向けての取り組みを既に開始しています。(計画策定自治体数は年々増加傾向です。)

人口密度が小さくなると行政コストが高くなることを学識経験者からも指摘されています。

今後、財政状況が更に厳しさを増すと見込まれる中、持続可能な自治体経営を維持するためには、人口密度を高め、行政の効率化を図ることが不可欠と考えます。

令和2年6月には立地適正化計画に居住エリアの安全性を確保する防災指針が追加することとされました。そのことを踏まえて今後も策定に取り組む自治体は増えてくると思います。

令和6年度から始まる新総合計画の改定に合わせて改定される都市計画マスタープランの一部として、立地適正化計画の策定を提案しました。

**ご意見・ご感想等ご連絡をお待ちしています。**

【連絡先】 ふくにし勝後援会 〒666-0014 川西市小戸1-6-12-303

☎&📠 072-744-2803 📱 090-4766-2203

福西 勝(ふくにし・まさる) プロフィール

昭和54年7月20日生まれ(42歳)、鶴之荘幼稚園、川西小学校、緑台中学校、大商学園高等学校卒業。高校卒業後はスノーボードインストラクター、清和台中学校陸上競技部の外部コーチ等、市村浩一郎衆議院議員公設第二秘書を経て、平成22年川西市議会議員選挙初当選。(3期目)現在、建設公企常任委員会、中心市街地・新名神整備調査特別委員会委員長  
猪名川上流広域ごみ処理施設組合議会議長・都市計画審議会委員